

皆様こんにちは。日頃より当センターの運営にご理解とご協力を頂きまして、誠にありがとうございます。今年は天候不順が続いた夏でしたが、いかがお過ごしでしょうか？

さて、この度のこうせいいん通信では、私からも活動報告をさせて頂き、発行の挨拶に代えさせて頂きたいと思っております。

皆様は「認知症サポーター100万人キャラバン」という活動をご存じでしょうか？これは厚生労働省が「認知症を知り地域をつくるキャンペーン」の一環として行っているもので、「認知症の人と家族への応援者である認知症サポーターを全国で100万人養成し、認知症になっても安心して暮らせるまちを目指す」という活動です。養成されたキャラバン・メイトと呼ばれる講師が、それぞれの地域の自治体や団体、個人等と協力して「認知症サポーター養成講座」を開講し、参加者はその日から「認知症サポーター」の証「オレンジリング」を腕にはめます。町の中でこのリングを付けている人は「認知症の知識がある人」と言うことがわかるわけです。

認知症サポーターは少なからず認知症という「病気の特徴」、「望ましい関わり方」、こんな時は「どこに相談すればよいか」等全般的な知識を身につけていますので、いざという時に頼りになる存在となります。

認知症サポーターに直接的な関わりを求めているわけではありません。ほんの数時間、講義を聴いたり、DVDを見たり、一緒に考えたりしながら認知症に対する知識を持ってもらい、「認知症のことを知っている人」になっただけでよいのです。

この活動は、函館市でも活発に行われております。総合的な窓口は保健所となっており、町会や民生委員の方などが開催を希望する場合、その地域を担当する地域包括支援センターに依頼が来ることも多いのです。もちろんセンターに直接連絡があっても、保健所と調整し講座開催の支援を行います。

当センターでも、平成21年5月22日、湯川町3丁目町会の皆様からのご依頼で認知症サポーター養成講座を開講いたしました。この度はNPO法人ケアマネジャーネットワーク函館の理事、松川郁美氏に講師をお願いしました。日頃の実践に則した、たいへん興味深い内容で、参加された皆様も真剣に聞き入っておりました。最後に皆でオレンジリングを腕にはめ、認知症サポーターになった実感を共有させていただきました。

当センターでは、今後もこの活動を積極的に実施して行きたいと考えておりますので、興味のある方はぜひセンターにお問い合わせください。



オレンジリング

所長 松野 陽



函館市地域包括支援センター厚生院

〒042-0955

函館市高丘町3番1号（介護老人福祉施設 函館百楽園内）

TEL 0138-57-7740 FAX 0138-57-7746

函館市地域包括支援センター厚生院 ブランチ花園

〒041-0843

函館市花園町31番4号

（市住花園団地4号棟1Fデイサービスセンター花園内）

TEL 0138-56-5695 FAX 0138-52-2306



窓口相談

月～土 9:00～17:30  
（日曜日は定休）

※ 休日・夜間は携帯電話へ転送しており、お急ぎの場合など、ご相談をお受けしております。

お知らせ

～特定健康診査結果届いていませんか～

特定健康診査（生活機能評価）の結果、介護予防の取り組みが望ましいと診断された方で、足腰のおとろえ、お口のトラブル、低栄養など気になる症状の改善に向けた教室の取り組みを、お電話や個別訪問等でご紹介しております。

※ 興味のある方・心配と感じている方お気軽にご連絡ください。



## 老人福祉センター健康教育講座



認知症について（指体操風景）



筋力アップ（スクワット運動中）

湯川老人福祉センターにて6月に「認知症予防」、7月には「筋力アップ」について講演と体操などを取り入れた出前講座の機会をいただきました。

日頃から湯川老人福祉センターをご利用されている方々約40名～50名のご参加をいただき、体操が始まると積極的に体を動かされ、【健康的に暮らすぞ】という意気込みを感じました。

今後も地域の集まりに出向き、ご希望のテーマにそって講話や体操などを行ってまいりますので、お気軽にお問い合わせください。

涼しくなりましたが  
ご用心！

## 食中毒に注意しましょう

消費期限を確認し  
早めに食べましょう

食中毒の原因の大部分は細菌によるもので、予防するためには、細菌の汚染を防ぐことが大切になります。

食中毒を予防するために3つのことに気をつけましょう。

- 1、清潔：手洗いや調理器具の消毒。
- 2、迅速・冷却：食品は室温に長く置かず、早めに冷蔵庫へ入れ冷やしましょう。
- 3、加熱：十分な加熱をしましょう。



ブランチ花園から  
お知らせ

～介護保険サービスのご利用を希望される方へ～

## 介護保険の申請から結果までの流れ

ヘルパーやデイサービス等の在宅サービス、もしくは施設サービスを利用するには介護や支援が必要な状態かどうか、また、どのくらいの介護が必要であるかの認定を受ける必要があります。今回は、申請から認定結果が出るまでの流れをご紹介します。

### 申請

市役所や各支所にて、ご自分で申請することも出来ます。

ブランチ花園の職員が  
ご自宅を訪問し、申請  
の代行をいたします。



### 認定調査

函館市の調査員が訪問し、ご本人とご家族に聞き取り調査を行います。普段困っている事や不便に思っている事は具体的に遠慮なく、お伝え下さい。



# ご存知ですか？緊急通報システム



心臓の病気や、急な発作を起こす病気を患っている方が消防へ連絡する際に、簡単に連絡できる装置「緊急通報システム」を紹介します。

## 対象となる方は～

おおむね65歳以上の一人暮らしの高齢者及び高齢者のみの世帯で、身体虚弱のため緊急事態に機敏に行動する事が困難な方や、一人暮らしで重度の心疾患や高血圧症、喘息などの激しい発作を起こすような、突発的に生命に危険な症状が発生する持病をお持ちの方が対象となります。

## 申請～決定～設置まで

相談を受けるとセンター職員が対象となる方を訪問し、疾病や生活の様子などを聞き取りさせていただきます。※申請には「近隣協力員」が必要となります。聞き取りした内容を基に作成した書類を持って、市役所へ申請となります。相談の結果該当と決定されると機器が設置されます。（設置には1～2ヶ月を要します。）※聞き取りの中で「特に病気は無いが、不安なので設置したい」という場合は該当となりませんのでご注意ください。

## 近隣協力員とは？

通報を受けた際、ご本人と連絡が取れない場合に消防や市役所から様子をお聞きする等の協力をお願いする方です。原則3名必要となります。

## 該当とならなかった方へ

明らかに対象とならない方や、申請の結果該当にならなかった場合、ご希望の方には民間で行われているサービスについて情報提供します。



## 貸し出す機器はこちらです！



- ① 本体機器と  
ペンダント式通報装置
- ② 火災センサー  
定温熱感知器と  
作動式熱感知器

詳しい説明や、申請をご希望の方はお気軽に当センターへご連絡下さい。

### 一次判定

認定調査の結果をコンピュータで判定します。

### 主治医の意見書

主治医の先生が、介護を必要とする原因疾患等について記載します。

市役所から主治医の先生へ直接依頼されます。



### 二次判定

認定調査の結果と主治医意見書をもとに、専門家からなる審査会において、どのくらい介護の労力が必要か審査し、判定します。

### 介護度の決定

非該当から要介護5までの8段階のいずれかの介護度が決まります。（認定）

非該当	軽度 ↑ ↓ 重度
要支援1	
要支援2	
要介護1	
要介護2	
要介護3	
要介護4	
要介護5	

### 保険証

ご自宅に、市役所から介護保険証が郵送されます。

認定申請やその他制度等の詳しい説明をご希望される方は、**ランチ花園** (Tel 56-5695) までご連絡下さい。

函館市地域包括支援センターケアプラン研修会

とき : 平成21年8月22日(土曜日) 午後2時~午後5時  
場所 : 函館市民会館大会議室

函館市内のケアマネジャーにお集まりいただき、市内6カ所の函館市地域包括支援センターが合同で、「医療機関と介護支援専門員との連携の課題」というテーマで研修会を開催しました。



講演中の八重樫支部長

北海道医療ソーシャルワーカー協会南支部長の八重樫優氏の講義に続き、医療ソーシャルワーカーと介護支援専門員、地域包括支援センターの職員などがテーブルを囲み、「退院して自宅に戻ることを目指す高齢者やその家族が抱える不安や心配」をテーマにグループワークを行いました。



真剣に検討している参加者の皆さん

参加者は立場や職種は違いますが、それぞれの目線で意見交換ができたことで、「私たち専門職は、高齢者やその家族の不安や心配を少しでも取り除き、安心して自立した生活を送っていただけるようお手伝いする共同支援者である」という共通の理解を得ることができ、たいへん有意義な時間を過ごすことが出来ました。

今後もこのような研修会の開催を通じ、地域に役立てるような取り組みを行って行きたいと考えております。

地域の集まりにぜひ!

当センターでは、町内会等の地域での集まりにお伺いして、高齢者に関する講話を行ったり、相談への対応や情報提供などを行なっています。ご希望の方は、お気軽にご連絡下さい。

大井川 印牧 須田 松野 佐々木 森 矢野



三好 中村 工藤 福原 鈴木

~厚生院のスタッフです。~

編集後記

今年は夏を感じられないまま、秋に突入したように感じます。食欲の秋でもあります。しっかり食事を摂り、インフルエンザ等吹き飛ばして乗り切りましょう。

広報誌担当 森・工藤・中村・鈴木